

理事長退任の挨拶 「出会いが感動をつくり感動が人をつくる」

(理事長職の4年間を終えて!!)

前理事長 片山 和郎



4年間というのはアツという間でした。自らが生業とする税理士業務には直接影響がないばかりか、むしろ事務所にはいつもいなく、ボランティア的な役職でしたが、楽しいことばかりでした。

一番楽しかったことは新潟県内を中心としながら、関東信越地区さらに全国の税理士の方々と出会えたことでした。大人しい自分にはない、目的意識を持って自信満々とした態度で且つバイタリティー溢れる方々ばかりでした。

新潟県人が持たないウィット感やユーモア感に富んだ話題をTPOに応じて話したり挨拶したりする姿勢は学ぶべきものが多く、他人の意識を引き出す質問力や事業を推し進める説得力などに通じるものがあり「そういう風にするんだな」と強く感じました。実務に活かすべき学びの機会を得られた至福の時でした。

第51期通常総代会で、大きな石を動かすために石の周りを50周年かけて掘り進んできたことを話させてもらいました。

新潟県税協の理解はまだまだ不足しており、税理士会館の土地・建物は県連の所有である、職員は県連職員である等々の誤解をしている方々が多くいることの現実を知らされました。(不動産は新潟県税協の所有で、職員は新潟県税協の採用です)その現実には理事長職になってイヤというほど知らされました。

反面自己満足のところがあったのも事実です。県連又は地域(支部)を経由して税理士会に対して1,800万円以上の拠出をする予算を組みました。新

潟県税協組合員等と税理士会会員が合一しているとの前提です。最近はその資金が何時交付されるのですか?と言われるくらい当たり前となり、会費を組合員等(税理士)から徴収していないのに何故そのような資金が交付できるのだろうかなどということを考えなくてもよい程収益構造が良くなった時代となりました。

今は新潟県税協役員をはじめとする組合員の一部の特定の方々が頑張ってくれていますが、この人たちだけの頑張りが永々と続くとは思われません。

他5県のように庭が広いわけではありませんのですぐ結果に表れるわけではありません。顔はニコニコしながら、必死に水掻きをしているのが現実です。

極端な比喻をすれば、新潟県税協が無かったらどうなるのだろうかということを自分に置き換えて考えて頂くことが、新潟県税協を理解していただけることの出発点かもしれません。

具体的には支部事務局経費、支部活動、研修などの県連事業活動を自ら徴収される会費等の中でやるしかありません。

聡明な税理士ならばすぐに理解されると思います。

自信と誇りと信念をもって新潟県税協をリードし税理士会の一翼を担っているのが新潟県税協の役員ですが、その活動を理解していただきたいと願っております。

出会いに感動が揺り動かされ、感動により少しだけ大人になれたのか、楽しかった理事長職を振り返っています。今後は税理士会会務活動に精励致すつもりでおります。

大変ありがとうございました。